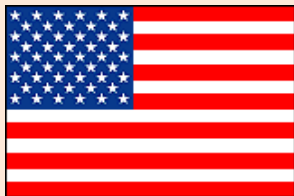


# アメリカ・ウィークリーレポート

(くりっく株365:NYダウ証拠金取引)

NYダウ証拠金取引は、「NYダウ」の数値(円換算前の原数値)をもとにした価格(マーケットメーカーが提供する価格)により取引されます。「NYダウ」の数値×100円を売買単位(1枚)とし、円建てで取引が可能です。



## 株価指数NYダウの特徴

株式会社DZHフィナンシャルリサーチ  
シニア・アナリスト 野口文高



このレポートでは...

- NYダウは、米国経済の発展とともに上昇してきました  
⇒ 過去60年間(1955年～2015年)、米国の経済規模を表す名目国内総生産(GDP)が42倍余りに拡大する間、NYダウは36倍近くに上昇しています。
  - NYダウは、過去20年間に大きく崩れる局面もありましたが数年で回復しています  
⇒ 景気後退局面はあったものの、適切な金融政策などにより米国経済が長い目でみてインフレなき持続的成長を続けてきたことが背景にあります。
  - NYダウは、世界の主要株価指数に大きな影響を与えています  
⇒ くりっく株365は世界の主要株価指数を対象とするので、各株価指数の特徴を生かした取引が為替レートの変動を気にすることなく可能となります。
  - NYダウは、10%超の下落で「調整」、20%超の下落で「ベア相場」と呼ばれます  
⇒ 「調整」が短期間で反発する可能性が高いのに対して、「ベア相場」は数年に及ぶこともあるので、注意が必要です。
- 最終ページの「日経平均株価とNYダウ」に、両指数の関係をまとめておりますので、あわせてご参照ください。

### [取引対象株価指数]

#### NYダウ

アメリカの代表的な大型株30銘柄で構成される株価指数で、100年を超える歴史があります。初めて発表された1896年5月26日の値は40.94ドルでした。構成銘柄の価格加重平均により算出されます。

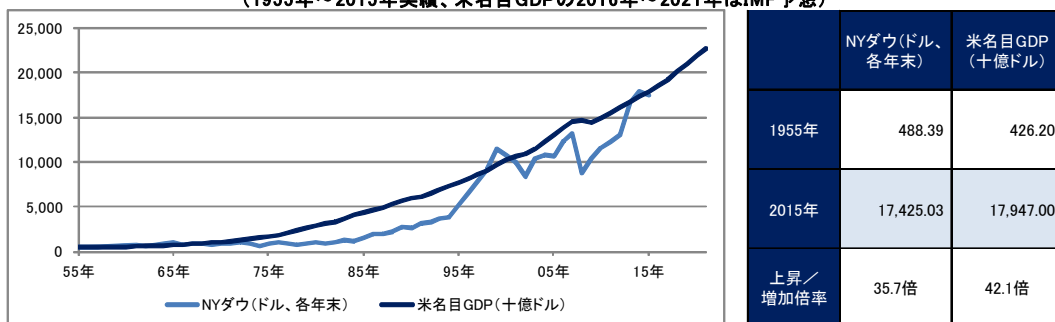
#### NYダウ構成銘柄リスト

3M
ゴールドマン・サックス・グループ
IBM
ホーム・デポ
ボーイング
ユナイテッドヘルス・グループ
マクドナルド
ジョンソン・エンド・ジョンソン
トラベラーズ・カンパニー
ウォルト・ディズニー
ユナイテッド・テクノロジーズ
シェブロン
アップル
エクソンモービル
プロクター・アンド・ギャンブル
ビザ
キャタピラー
ウォルマート・ストアーズ
イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール
アメリカン・エクスプレス
JPモルガン・チェース
ナイキ
メルク
ベライゾン・コミュニケーションズ
マイクロソフト
コカ・コーラカンパニー
ファイザー
ゼネラル・エレクトリック
インテル
シスコシステムズ

### NYダウは、米国経済の発展とともに上昇してきました

NYダウは、米国経済の発展とともに上昇してきました。過去60年間(1955年～2015年)、米国の経済規模を表す名目国内総生産(GDP)が42倍余りに拡大する間、NYダウは36倍近くに上昇しており、長期的には、米国を代表する株価指数のNYダウは経済の拡大に伴って上昇してきたことがわかります。NYダウと米国の名目GDPには、(図表1)に示すように、NYダウを十億倍すると米国の名目GDPに近くなるという面白い関係があります。米国の名目GDPは今後も拡大を続けると予想されており、それに伴ってNYダウも上昇を続けると期待されます。

(図表1) NYダウと米名目GDPの推移  
(1955年～2015年実績、米名目GDPの2016年～2021年はIMF予想)



出所:ブルームバーグ、米商務省、国際通貨基金(IMF)のデータより、DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接的損失および損害については一切補償には応じません。

Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

本レポートは、本取引所が株DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。 株式会社東京金融取引所

金融取

東京金融取引所

\* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きいいため、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。



## NYダウは、過去20年間に大きく崩れる局面もありましたが数年で回復しています

NYダウの上昇過程は一樣ではなく、経済の変調などから大きく崩れる局面もありました。2001年から翌02年にかけての不正会計問題では2000年の高値から40%近く、2008年9月のリーマン・ショックを頂点とするサブプライム問題では2007年の高値から50%以上も下げました。しかし、ベア相場が長期に及ぶことはなく、数年で下落前の高値を回復しました。相場の下げが長く続かなかつた背景には、景気後退局面はあったものの、適切な金融政策などにより米国経済が長い目でみてインフレなき持続的成長を続けてきたことがあります。

(図表2)NYダウの推移(1995年～2016年5月20日)



出所:ブルームバーグと全米経済研究所(NBER)のデータより、DZHフィナンシャルリサーチ作成。



## NYダウは、世界の主要株価指数に大きな影響を与えています

米国は世界の株式市場の中心で、NYダウは日経平均株価など世界の主要株価指数に大きな影響を与えています。(図表3)に示すように、過去20年間NYダウの上昇と下落に伴って、世界の主要株価指数は動いてきました。唯一の例外は上昇局面①の日経平均株価ですが、これはデフレ経済という日本固有の問題が強く影響したと考えられます。くりっく株365は(図表3)示す世界の主要株価指数を対象(6月27日以降)とするので、各株価指数の特徴を生かした取引が為替レートの変動を気にすることなく可能となります。日経平均株価とNYダウの関係については、次ページにまとめておりますので、ご参照ください。

(図表3)NYダウの上昇/下落局面における主要株価指数の騰落率比較

	NYダウ	日経平均株価	FTSE100	DAX®	期間
上昇局面①	205.7%	-3.9%	117.2%	240.5%	1994年12月30日～2000年1月14日*
下落局面①	-37.8%	-55.0%	-43.8%	-63.8%	2000年1月14日*～2002年10月9日*
上昇局面②	94.4%	101.0%	76.8%	207.2%	2002年10月9日*～2007年10月9日*
下落局面②	-53.8%	-58.7%	-46.5%	-53.7%	2007年10月9日*～2009年3月9日*
上昇局面③	167.3%	136.2%	73.8%	168.6%	2009年3月9日*～2016年5月20日

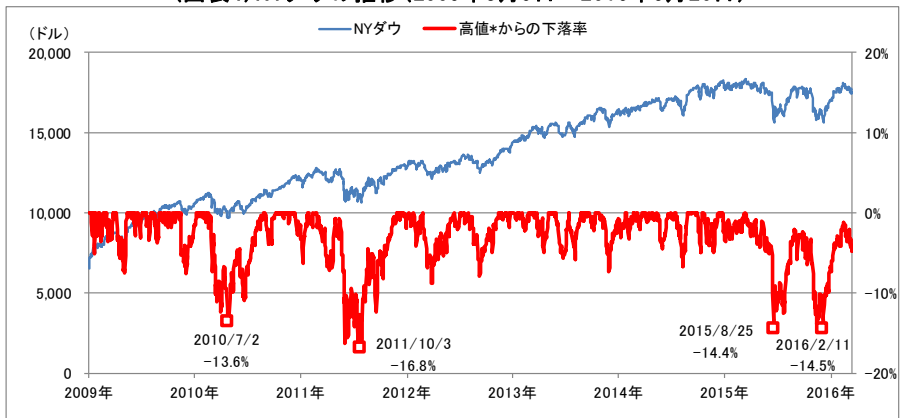
\* NYダウが高値/安値(終値ベース)を付けた日。  
出所:ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。



## NYダウは、10%超の下落で「調整」、20%超の下落で「ベア相場」と呼ばれます

NYダウは、高値から10%超下げると「調整」、20%超下げると「ベア相場」と呼ばれます。NYダウは(図表4)に示すように、リーマン・ショック半年後の2009年3月9日に底を打った後、欧州債務危機の2010年7月と2011年10月、中国経済減速懸念の2015年8月、原油安の2016年2月などには、高値から10%超下げの「調整」となりましたが、20%超下げる「ベア相場」には陥っていません。経験則として、NYダウの下落は米国が景気後退とならないかぎり「調整」で終わることが多く、「調整」は短期間で反発する可能性が高いといえます。これに対して、「ベア相場」は数年に及ぶこともあるので、注意が必要でしょう。

(図表4)NYダウの推移(2009年3月9日～2016年5月20日)



\* NYダウが大底を打った2009年3月9日以降の高値(終値ベース)。  
出所:ブルームバーグのデータより、DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなされる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ  
本レポートは、本取引所が株DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。 株式会社東京金融取引所

\* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きいので、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。

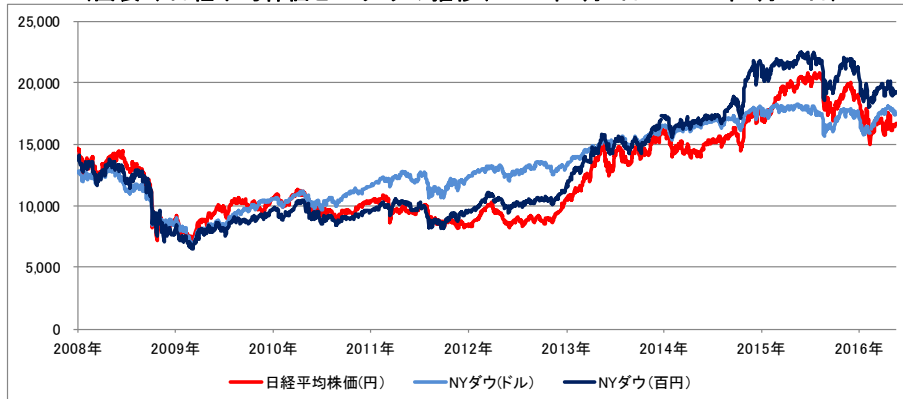
## 日経平均株価とNYダウ

● 日経平均株価とNYダウの原数値との連動性はそれほど高くありません



NYダウと日経平均株価の値動きを比較すると、日経平均株価は円換算のNYダウと高い連動性があるのに対して、NYダウの原数値とは連動性がそれほど高くありません。NYダウは(図表5)に示すように、リーマン・ショック半年後の2009年3月9日に底を打った後、数回の調整局面はあったものの、中長期的にはほぼ一貫して上昇基調でした。これに対して、日経平均株価は2012年までの円高局面で低迷が続き、円換算のNYダウも同様に低迷しています。日経平均株価は2012年末からのアベノミクス相場で急騰しますが、急速に円安が進む中で円換算のNYダウも同様に急騰しています。

(図表5) 日経平均株価とNYダウの推移 (2008年1月4日～2016年5月20日)



出所: ブルームバーグのデータより、DZHフィナンシャルリサーチ作成。

● これに対して、円換算のNYダウは日経平均株価に近い騰落率でした



円高・円安局面における日経平均株価とNYダウの関係をまとめると、(図表6)のようになります。円高は日経平均安に、円安は日経平均高につながると思われれます。実際、(図表6)の円高局面で日経平均株価は29.1%安、円安局面で136.1%高となりました。円高局面で、NYダウの原数値は10.1%高でしたが、円換算のNYダウは日経平均株価に近い18.2%安となっています。円安局面においても、円換算のNYダウは日経平均株価に近い122.3%高で、原数値の42.0%高を大きく上回っています。

(図表6) 円高・円安局面における日経平均株価とNYダウ

	年月日	円/ドル	日経平均株価 (円)	NYダウ(ドル)	NYダウ(百円)
円高局面	2008年9月12日*	107.95	12,214.76	11,421.99	12,330.04
	2012年11月14日**	80.25	8,664.73	12,570.95	10,088.19
	騰落率	34.5%	-29.1%	10.1%	-18.2%
円安局面	2012年11月14日**	80.25	8,664.73	12,570.95	10,088.19
	2015年6月5日***	125.63	20,460.90	17,849.46	22,424.28
	騰落率	-36.1%	136.1%	42.0%	122.3%

\* リーマン・ショック(2008年9月15日)の前営業日。  
\*\* アベノミクス相場の起点とされる野田首相(当時)が衆議院の解散を表明した日。  
\*\*\* 円安が最も進んだ日(NY時間午後5時基準)。  
出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

● くりっく株365はNYダウを原数値で円取引できるので、値動きの違いを利用できます



くりっく株365は、NYダウを原数値のままの円建てで取引できます。「NYダウ」の原数値×100円を売買単位(1枚)として、円で取引ができるのです。例えば、NYダウが17,500ドルであるとすれば、17,500×100円=1,750,000円が取引単位となります。NYダウと日経平均株価の連動性はそれほど高くはないので、値動きの違いを利用した取引が可能です。このほか、くりっく株365には(図表7)に示すようなさまざまな魅力とメリットがあり、買いからも売りからも取引ができるので、多様な目的に沿った投資に対応することができます。

(図表7) くりっく株365の魅力とメリット

**1 配当あり**

現物株と同じ

買いポジションを保有することで、株価指数ベースでの配当額を受け取れる!

**2 日経225のほか、海外株価指数も**

¥で

**3 レバレッジ取引**

少額で

証拠金取引、つまり少額の資金で取引できるから裏に効率的!

**4 ほぼ24時間**

いつでも

日本市場だけでなく、海外市場の取引時間をカバー、深夜でも相場の変動性を捉える!

ほぼ24時間・祝日も取引できるからリスクを軽減

**5 決済期限なし**

長期保有も可能

取引に期限がなく、ポジションを毎日自動的に繰り越し。だから、決済に追われない!

出所: 東京金融取引所「くりっく株365ウェブサイト」より株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなされる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接的あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ  
本レポートは、本取引所が株式会社DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株式会社DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。 株式会社東京金融取引所

\* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きいので、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。